

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.40			3.4
1 音環境				3.1	0.15	-	-	3.1
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		遮音性能:Dr-40		4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御				3.6	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		窓ガラスは複層ガラス(Low-Eガラス)		4.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性		個別空調、冷暖切り替えアリ		4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御		加湿機能アリ		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-	3.5
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:1.5%以上2.0%未満		3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	-	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		人感センサ、リモコンスイッチによる制御		5.0	0.25	-	-	
4 空気環境				3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F を全面的に使用		4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	
1 換気量		建築基準法の換気量の1.4倍		5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		行政センター事務室213.85㎡/20人 = 10.69㎡		4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー-条例適合まで整備		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:2,800 窓あり		4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		建物内禁煙、各階ホ-ルラウンジに自販機		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画				3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内外壁、床など維持管理に配慮		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		各階に十分な倉庫、窓はすべて開口清掃可能など		5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.7	0.31	-	-	3.7
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
1 耐震性		耐震安全性の分類 類 建基法25%増の耐震性		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.25	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.25	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:塩ビシート、壁:PBt12、ビ-ルクロス、天井:岩綿吸音板		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VLP、汚水雑排水:VP 使用		4.0	0.17	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.25	-	-	

2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	防振吊金物使用、個別換気、空調により系統運転が可能	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、配管の系統分け	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備設置、設備機器の地下への設置なし	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAにて計画	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	複数の通信手段を計画、設備機器の地下への設置なし	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.0m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が221.668/942.86=0.235102	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	天井スペース確保、各機器ごとに点検口設置	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	PSを広めに確保、地下配管ビットリ	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	広いビロテ、建物内外をつなぐ中庭、屋上利用等、県産材使用	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制		窓ガラスは複層Low-Eガラスを採用	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率のLED照明を採用	3.2	0.30	-	-	3.2
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=7.8%	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、自動水栓、節水型便器使用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	基礎ビット下の再生砕石材、磁器質タイル、ビニル床材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	県産材、国産ヒノキ使用	4.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OA707-の採用、GL工法	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.22	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.5	0.68	-	-	
1	消火剤	消火剤は、消火器のみ	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン現場発泡ウレタンODP=0、GWP=50未満を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒	ノンフロン冷媒(ODP=0、GWP=50未満)の採用	4.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	卓越風向や地表面被覆材などにて温熱環境を配慮	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	